

障害を持つ子どもたちの現状は

からだに障害をもつて生まれてきた子どもたちは、18歳まで養護学校に在籍できます。卒業すると、軽度の障害をもつ方は作業所などを利用して、自立の道を探します。「自分がこの子の世話をできなくなったら、どうなるんだろう?」という不安と、重複の障害をもつ方の場合、歩くことや身の回りのことができない場合がほとんどです。

重度の障害を持つ人を受け入れる施設はほとんどありません。介護のしやすさは大切ですが、それを優先することにより、まだ動く体を寝たきりの状態にさせてしまう事実も存在します。

なんとか したい!

医療的ケアのできる施設を!

重度の障害を持つ場合は、痰の吸引、経管栄養、導尿など、医療的ケアが必要となることがあります。路の臺では、医療的ケアができ、重度の障害のある方が穏やかに生活できる場を作りたいと考えています。



社会とのつながり

施設は、押し込みでおく場所ではありません。家族や友人と楽しく語れる居場所づくりは私たちののこと、みなさまに知っていたくだくためのイベント開催や、地域に貢献できる活動も行っています。

特定非営利活動法人「路の臺」

路の臺（ふきのとう）の由来

ふきのとうは、冷たい雪をかきわけて春一番を告げてくれます。団体名はあえて難しい漢字にしています。それは障害者施設設立を目指すからこそでした。よく、障害があるからできない、年をとっているからできない、という言葉を耳にします。

できなければどうしたらよいか。
知恵をしほり、努力することこそが大切なのです。

「ふき」は、くさかんむりに道路の路。
「とう」は、くさかんむりに大吉の吉。そして教室の室、うかんむりの点がないもの。

覚えててしまえば、決して難しくはありません。

どんな厳しい冬でも、必ず春はやってくることを忘れてください。

私も「路の臺」を応援します！



つボイノリオ
ラジオハーツナリティ



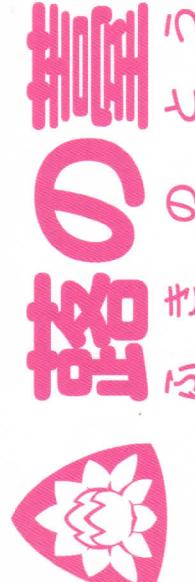
山田 富也
社会福祉法人 ありのまま舎
(法人・生前いたいた文章です)

私たち障害を持つた者は、施設や病院に入る
ことを余儀なくされます。
私が数年間の入院生活でつくづく感じたことは、
「プライベートなものが一切ない」ということ
でした。

自分たちの理想の場所を作り運営するには、
どうしても自己負担が大きいもののです。そのためにも、多くの市民の皆さんとの理解と協力、
また地元企業の皆さんとの協力が不可欠です。
是非とも、一人でも多くの市民の皆様のご協
力ををお願いいたしますとともに、「路の臺」
の応援を宜しくお願いいたします。

書籍のご案内

栗木 宏美 著
「キヨウリは真っ直ぐじゃないといけないの?」
定価 1,365円(消費税込)
発行・発売 ヴィレッジブックス



特定非営利活動法人

<http://www.geocities.jp/fukinotou07/>
連絡先 : 080-4305-7644